

# 各賞の紹介

- **功労賞**：本学会の活動に長年にわたって貢献した学会正会員。  
または本学会の活動に寄与し、かつ、長年にわたって糖尿病教育・看護に貢献した学会正会員。
- **フロンティア賞**：糖尿病教育・看護に関し、独創的で先駆的な活動を行った学会正会員もしくはグループ。
- **奨励賞**：糖尿病教育・看護に関し、着眼点が斬新で今後の発展を期待したい活動を行った学会正会員もしくはグループ。
- **表彰論文賞**：糖尿病教育・看護に関する論文を本学会誌に掲載され、厳正なる審査の下優秀な論文と認められた学会正会員

# 平成23年 功労賞 フロンティア賞 奨励賞

功労賞	堀口ハル子	<p>平成8年～ 正会員 日本糖尿病教育・看護学会の設立時から会員であり、長年評議員も務められ、地域のコミュニティや医師と協働して糖尿病患者のケアの質の向上に貢献した。特に、西東京地域の糖尿病看護ネットワークづくりの中核的役割を担い、所属施設では、次世代の糖尿病看護に携わるスタッフの育成に労力を惜しむことなく支援され、糖尿病看護の発展に大きく貢献した。</p>
フロンティア賞	数間恵子	<p>平成14年～ 正会員 大学での看護学の研究と臨床の場をつなぐ活動を長きにわたり継続してきた。平成20年の診療報酬改定では、糖尿病合併症管理料の獲得に向け、自らの看護外来における「療養指導料」に関する実践データおよび会員の有するデータをまとめ、特別委員会委員としてリーダーシップを発揮して申請活動に貢献した。第15回学術集会では学術集會会長を務め、さらに現在は副理事長として、本学会および糖尿病看護の発展に大きく貢献した。</p>
奨励賞	青木美智子	<p>平成12年～ 正会員 平成18年から特別委員会「糖尿病に強い看護師育成支援委員会」の委員として、研修プログラムの作成および研修事業引き受け施設に対するフォローアップに尽力した。平成20年、本事業が政策委員会に引き継がれた後も継続してその中核的役割を担いその発展に貢献している。また、本学会の会員への研修会の企画・運営等、糖尿病看護認定看護師として幅広く活躍され、本学会および糖尿病看護の発展に寄与した。</p>
	市川より子	<p>平成10年～ 正会員 本学会の被災地域県のネットワーク委員として、東日本大震災の際には被災地からの糖尿病患者を受け入れて看護に尽力するとともに、福島県糖尿病療養指導士会相双支部の被災状況および各支部の会員の状況を調査して課題を明確化するなど、被災地域の災害時の糖尿病看護に多大な貢献をした。</p>
	佐々木幸子	<p>平成10年～ 正会員 本学会の被災地域県のネットワーク委員として、東日本大震災後、インスリン製剤の入手等の相談窓口となり、周辺地域の看護師への情報提供および被災地の糖尿病患者やご家族の状況を積極的に情報発信するなど、被災地域の災害時の糖尿病看護に多大な貢献をした。</p>
	星野ゆかり	<p>平成12年～ 正会員 本学会の被災地域県のネットワーク委員として、東日本大震災の際には所属施設を活用し、糖尿病患者の看護に多大なるを尽力した。また、震災後3ヵ月後に糖尿病看護研究会を開催し、関連施設や関係職種と共に震災後の活動を共有し合うなど、被災地域の災害時の糖尿病看護に多大な貢献をした。</p>

# 平成23年 表彰論文賞

1期(第1巻 第1号)～3期(第14巻第2号)の原著論文39本から審査

巻、号	著者	タイトル
第5巻 第2号	松田 悦子,他	2型糖尿病患者の食事自己管理に対する自己効力と結果予期
第6巻第2号	二宮啓子	思春期の糖尿病患者児と親の療養生活に対する認識の相違が血糖コントロールに及ぼす影響
第7巻第2号	米田昭子	2型糖尿病患者の身体感覚に働きかけるケアモデルの開発
第11巻第2号	瀬戸奈津子	糖尿病看護における実践能力育成のための評価指標の開発(1)